

子育て支援総合コーディネートの推進に影響を与える要因に関する研究

関西学院大学大学院 平田 祐子 (7253)

芝野 松次郎 (関西学院大学・3294)、小野セレスタ 摩耶 (滋慶医療科学大学院大学・5205)

キーワード：子育て支援総合コーディネート，ソーシャルワーク，ケースマネジメント

1. 研究目的

本研究の目的は、「子育て支援総合コーディネート」(以下、コーディネート)の円滑な推進に影響する要因とその要因間の関係性を明らかにすることである。

子育て支援総合コーディネート事業は、2003(平成15)年に厚生労働省で予算化された事業であり、個々の家庭のニーズを把握し、適切な子育て支援サービスにつなぐ役割を果たす、子育て支援の要となる事業である。

本研究ではとくに、行政機関の取り組む姿勢、人間関係、予算などといったコーディネートを実施する環境的要因、すなわち「コーディネート環境・システム」としての要因(独立変数)を因子分析によって明らかにし、それらの要因とコーディネート推進状況(従属変数)との関係性を明らかにする。

2. 研究の視点および方法

調査対象 全国市区町 1717件(村は除く、平成22年7月29日現在)を対象にアンケート調査を実施した。区に関しては、東京都のすべての特別区および全国の政令指定都市(平成22年4月現在19市)にあるすべての行政区に質問紙を配布した。村は基礎自治体としては規模が小さいために調査対象から省いた。送付先は市区町の子育て支援担当部局宛とし、子育て支援担当者に回答を求めた。

質問紙作成 質問紙は、ブレインストーミングによって抽出したコーディネートに重要であると考えられる質問内容を文献研究などにより補強して作成した。

質問紙の構成 属性：市区町の属性と質問紙回答者の属性 従属変数：市区町のコーディネートが機能しているかを問う項目(10件法)。独立変数：コーディネートが機能するために重要であると考えられる「コーディネート環境・システムに関する項目」。独立変数については、「現状」(現在どれくらい実施できているのか)(以下、現状)と「考え」(どれくらい必要あるいは重要と考えるか)(以下、考え)に分けて質問をした(10件法)。

調査機関 2010(平成22)年11月18日~2011(平成23)年1月20日

分析方法 分析は、IBMSPSS Statistics 19を利用して実施した。

3. 倫理的配慮

調査結果は統計的に処理され、個別の市区町が特定できる情報は公開しないことを明記し、収集したデータの取り扱いには細心の注意を払っている。

4. 研究結果

質問紙の回収数は 873 件(回収率 50.8%)であった。うち、多変量解析を実施するため、それぞれの尺度に 1 割以上欠損値のあるもの、すべて同じ数値に回答しているものを省いた。その結果、有効回答は独立変数「現状」については 432 件、「考え」については 735 件となった。

「現状」の求められる環境・システムの因子分析 因子を抽出するため、「求められる環境・システム」に関する項目の「現状」の値に対して探索的因子分析(最尤法、プロマックス回転; 因子間の相関を想定)を実施した。因子負荷量が 2 因子にまたがり、0.3 以上を示しているもの、どの因子にも 0.3 以下の因子負荷量しか示していない項目を除き、因子分析を繰り返した。結果 7 回目の因子分析できれいな因子構造を示したため、因子構造として確定した。結果 3 つの因子が抽出された。第 1 因子は「人材の確保と有効活用のシステム」と名付けた。第 2 因子は、「市区町全体でコーディネートに取り組む姿勢」と名付けた。第 3 因子は、「コーディネート管理システム」と名付けた。

「考え」の求められる環境・システムの因子分析 因子を抽出するため、「求められる環境・システム」に関する項目の「考え」の値に対して探索的因子分析(最尤法、プロマックス回転; 因子間の相関を想定)を実施した。因子負荷量が 2 因子にまたがり、0.3 以上を示しているもの、どの因子にも 0.3 以下の因子負荷量しか示していない項目を除き、因子分析を繰り返した。結果 4 回目の因子分析できれいな因子構造を示したため、因子構造として確定した。結果 3 つの因子が抽出された。第 1 因子は、「コーディネーターが活躍できる環境・システム」と名付けた。第 2 因子は、「コーディネート管理システム」と名付けた。第 3 因子は、「人材の質を確保するための予算と仕組み」と名付けた。

「現状」の環境・システムの各因子得点と従属変数の得点の相関 子育て支援総合コーディネーターがうまくいっているかを問う従属変数と、求められる環境・システムに関する 3 因子(現状)の相関は、「人材の確保と有効活用のシステム」 $r=.411$ 、「市区町全体でコーディネートに取り組む姿勢」 $r=.461$ 、「コーディネート管理システム」 $r=.306$ であり、すべての因子で中程度ないし弱い相関がみられた(すべて、1%水準で有意)。

「考え」の環境・システムの各因子得点と従属変数の得点の相関 子育て支援総合コーディネーターがうまくいっているかを問う従属変数と、求められる環境・システムに関する 3 因子(考え)の相関は、「コーディネーターが活躍できる環境・システム」 $r=.219$ 、「コーディネート管理システム」 $r=.127$ 、「人材の質を確保するための予算と仕組み」 $r=.094$ であり、ほとんど相関がみられず、直接的な関連性はほぼ示されなかった(第 1 因子、第 2 因子、1%水準で有意、第 3 因子、5%水準で有意)。

本発表は平成 22 年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))(課題番号: 22330178)『ソーシャルワークとしての「子育て支援総合コーディネーター」実践モデルの開発的研究』主任研究者芝野松次郎の調査結果の一部です。